

研究実施のお知らせ

研究課題名：身体拘束を行わず環境調整により安全確保を図った転倒転落を繰り返す患者の一事例

研究期間：令和８年７月～令和９年１月

当院では、上記課題名の研究を行います。日本看護協会が制定した「看護研究における倫理指針」に基づき、匿名化された既存資料・情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

令和８年４月～７月の間に当院救急科において緊急入院され、転倒転落の対策として身体拘束の代替案を検討し実施した方

【研究の目的と意義】

今後、ますます高齢患者が増加し、認知症やせん妄などの行動に対し医療安全と尊厳保持の間で苦慮することや、身体拘束を選択せざるを得ない局面が増加すると推察しています。安全の確保と患者の身体的自由・尊厳の保持を両立するための病棟での取り組みを振り返ることで、事例での最善を考え自身の看護実践に活かしていきたいと考えております。

【研究の方法】

診療録を用い、後方視的に、患者の経過を軸とし、安全対策、カンファレンス内容、実施結果を時系列に沿って整理し振り返りを行います。安全の確保と患者の身体的自由・尊厳の保持を両立するためどのような取り組みが必要となるか、看護師の役割について考察します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記載された診療情報（既往歴、診断名、看護記録、医師記録、カンファレンス記録等）を研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理方針等により個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【利益・不利益】

過去のデータを使用する研究であり、新たな検査や費用が生じることなく、また、使用させていただいた患者への謝礼等ありません。

【利益相反の状況】

過去のデータを使用する研究であり、新たな検査や費用が生じることなく、また、使用させていただいた患者への謝礼等ありません。

【研究の実施体制】

当院で後方視的に診療記録、看護記録の考察を行います。

【お問い合わせ先】

今回の研究では診療記録、看護記録から得られる必要な情報を利用させていただきたいと考えております。このような情報をしたくないとお考えの方は、以下の【問い合わせ先】へ遠慮なくご連絡をください。また、この研究に協力しないことによって当院での診療・治療において不利益を被ることは一切ございません。

【問い合わせ先】

仙台市立病院 ８ 東病棟

代表 022-308-7111(内線)3381

研究責任者 看護師長 富久尾 敬子

研究担当者 及川 凜